

25 PMD児のホスピタリズムに関する研究

国立療養所宇多野病院

高橋 邦枝

PMD児のホスピタリズム症状に対し、緩和し除去できる様に、私達職員は、どう援助し仕事の中でどう生じて行くかという目的でこの研究を行った。特に今回は要因の一つと考えられている親子関係を中心としてアンケート調査を行った。その結果、親と子に対して次の様な働きかけを実践した。

親に対して、1.家庭訪問、2.伝書バトの利用、3.親の積極的な行事参加、(㊸母親による手作りおやつ、㊹夏休み地藏盆の擬疑店、㊺親子ゲーム大会)それぞれ計画段階から積極的な参加を要請して参加してもらっている。この様に子どもと話し合いとふれ合いの時間を持つ様に働きかけの途中にある。これと平行して、病棟年間行事を通じて、子どもへの働きかけとして成果の得られている会食会を紹介する。

〔目 的〕

1. リーダー、サブリーダーの育成。
2. 献立決定、反省会等を通じて話し合いの経験を広める。
3. グループメンバーの一員としての意識を高める。

〔方 法〕

1. 1グループ6名で構成する。
2. 給食献立の中から作りたい献立を選びグループの人数分だけ、材料をもらう。

〔考 察〕

回を重ねる事に「やるぞ」という意欲が見られ、グループ内で協力し合ったり、決定時項にも責任を持つ等、多くの成果が得られている。

この様に病院スタッフの親と子への積極的な働きかけで、ホスピタリズム症状を少しでも緩和し、除去するためにも、これからも継続研究する。

今回行ったアンケートと、アンケート結果は次の通りです。

〔アンケート結果〕

1. 面会の回数について、親は回数が多すぎて負担が大きいと答えたのが多く、子どもは現在のままで良いと答えたのが30人中26人であった。
2. 面会時の親への要求度について、親は今は身の廻りの整理と身体の清潔に多く時間を使っているが、「これからはゆっくりと話をしたい」という意見があり、子どもから親への要求が少なく、「面会時に何をしたいか」の質問に対し「別になし」と答えたのが30人中

23人もいた。

3. 長期外泊について、親は長期になると、子どもの健康管理に対し自信なく、短期外泊を望むのが30人中12人であり、子どもの方は一日でも長く外泊したいと答えたのが、30人中23人と一日でも長く外泊を希望する傾向が見られた。
4. 外泊中の楽しみについて、親は「元気な子どもの顔が見られる事と答えたのが多く、次に「好きな物を食べさせる」と答えた人が多い。一方子どもの方は「好きなものが食べられる」と答えたのが、30人中6人もあった。
5. 対話をもつ時間帯と、話題については特に問題がなかった。

以上の様なアンケートから、入院年数、PMD児の入院時年齢、障害度との関係も調べてみたが、このアンケートからは、はっきりとしたものが得られなかった。

面会・外泊についてのアンケート

1. 現在行なわれている面会をどう思いますか。
① 回数について
② 曜日について
2. 面会日、お家の人に何をしてもらいますか。
3. 面会日、お家の人に何をしてもらいたいですか。
4. 現在行なわれている外泊（月一回）をどう思いますか。
5. 夏休み、冬休みの長期外泊をどう思いますか。
6. 外泊中、一番大切にしている事は何ですか。
7. 外泊・面会を通じて一番楽しみにしている事は何かですか。
8. 外泊・面会を通じて、どんな時に親と子で話す時間が持てますか。
9. 何についての話題が一番多いですか。
10. 外泊・面会について何か御意見がありましたらどうぞ。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

PMD 児のホスピクリズム症状に対し、緩和し除去できる様に、私達職員は、どう援助し仕事の中にどう生じて行くかという目的でこの研究を行った。特に今回は要因の一つと考えられている親子関係を中心としてアンケート調査を行った。その結果、親と子に対して次の様な働きかけを実践した。

親に対して、1.家庭訪問、2.伝書バドの利用、3.親の積極的な行事参加、((イ)母親による手作りおやつ、(ロ)夏休み地藏盆の擬疑店、(ハ)親子ゲーム大会)それぞれ計画段階から積極的な参加を要請して参加してもらっている。この様に子どもと話し合いとふれ合いの時間を持つ様に働きかけの途中にある。これと平行して、病棟年間行事を通じて、子どもへの働きかけとして成果の得られている会食会を紹介する。